

衆議院農林水産委員会ニュース

平成 30. 5. 31 第 196 回国会第 19 号

5 月 31 日（木）、第 19 回の委員会が開かれました。

1 農薬取締法の一部を改正する法律案（内閣提出第 50 号）

- ・齋藤農林水産大臣、磯崎農林水産副大臣、野中農林水産大臣政務官及び政府参考人に対し質疑を行い、質疑を終局しました。
- ・採決を行った結果、全会一致をもって原案のとおり可決すべきものと決しました。
（賛成－自民、立憲、国民、公明、無会、共産、維新、寺田学君（無））
- ・鈴木憲和君外 5 名（自民、立憲、国民、公明、無会、維新）から提出された附帯決議案について、石川香織君（立憲）から趣旨説明を聴取しました。
- ・採決を行った結果、全会一致をもってこれを付することに決しました。
（賛成－自民、立憲、国民、公明、無会、共産、維新、寺田学君（無））

（質疑者及び主な質疑内容）

藤井比早之君（自民）

- ・再登録制度から再評価制度になることで、安全性に逆行することになるのではないかと。また、現行以上に安全性を高めるためにどのような措置をとるのか。
- ・マイナー作物にも農薬の対象を拡大する取組について伺いたい。
- ・ドローンによる農薬散布の積極的な導入に向けての取組方針について伺いたい。

江田康幸君（公明）

- ・再評価制度を導入する意義及び有効成分ごとの評価の考え方について伺いたい。
- ・日本において農薬によってミツバチに被害が生じた事例及びこれに対する政府の対応はどのようになっているのか。また、安全性に問題のある農薬について登録の取消しや使用方法の変更等は可能なのか。
- ・ジェネリック農薬の登録申請について政府の見解を伺いたい。

亀井亜紀子君（立憲）

- ・再評価のスケジュールについて伺いたい。
- ・日本の農薬メーカーの競争力について、また、農薬の有効成分の輸入状況について伺いたい。
- ・農協を通じて購入する農薬が高額である理由について伺いたい。

石川香織君（立憲）

- ・農薬の使用量を最小限にする枠組みを示すべきではないか。
- ・既登録農薬の再評価スケジュールの優先度が高いものについてその理由を丁寧に説明すべきではないか。
- ・農薬の混用などの危険な使用方法に対する注意喚起・指導をどのように行っていくのか。

後藤祐一君（国民）

- ・農薬の使用に際して講ずべき被害防止方法のラベルへの表示に当たっては、わかりやすい表示とするようメーカーに働きかけるべきではないか。
- ・新たに農薬の登録事項となる「使用に際して講ずべき被害防止方法」にドリフト対策は含まれるのか。
- ・ジェネリック農薬の申請の簡素化により、ジェネリック農薬の製造に係るトータルコスト及び農家の購入価格がどの程度低減されることが期待されるのか。

田村貴昭君（共産）

- ・農薬使用量の低減の取組や、有機農業の推進について、農林水産大臣はどのように考えるか。
- ・既に登録されている農薬についても環境影響評価の対象を拡大するのか。
- ・農業分野における予防原則の重要性について、農林水産大臣の所見を伺いたい。

大串博志君（無会）

- ・マイナー作物の振興にどのように取り組んでいくのか。
- ・マイナー作物に使用できる農薬の登録については、安全性を確保しながら迅速に行える仕組みとなっているのか。
- ・ジェネリック農薬の普及に向けてどのように取り組んでいくのか。

森夏枝君（維新）

- ・平成 15 年の農薬取締法の改正以降どのような課題が見つかり、なぜ今法改正をするのか。
- ・効率的で低コストな農業の実現に貢献するための具体的な取組内容はどのようなものか。
- ・農薬に係る事故の発生状況はどうなっているか。また、事故防止のためにどのような取組を行っているのか。